

都心の自社工場から高品質な部品を即手配！ 「モノづくりは人づくりから」 技術と職人を磨き上げる

富士精器

創業から79年目を数える富士精器（目黒区碑文谷、藤野雅之社長、03-3715-5401、<http://www.fujiseiki.co.jp>）は、旋盤加工による金属切削加工、精密部品製造を主業として、自動車部品をはじめ、医療機器、半導体、ポンプなど高い精度が要求される多種多様な機械部品を製造している。また、タイ王国の地元工場と直接取引を行い、将来的には現地法人を設立した本格的な参入を計画中という。

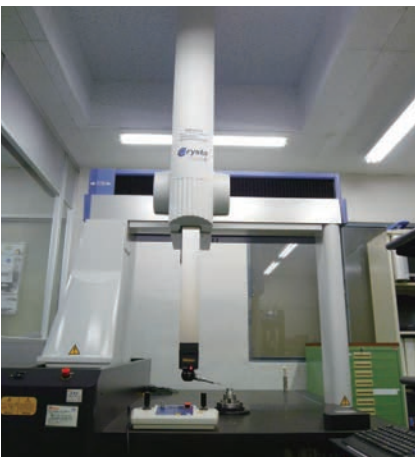
輪切りの素材を加工するのが通常の旋盤加工であるが、同社では、棒材からの切削加工を得意としており、最大で直径65mmの棒材を加工することができる。棒材から加工することにより、通常の工法よりもコストを抑えられる。また、写真の製品は、素材に対してすべて垂直に切削されているように見えるが、よく観察すれば、微妙な角度がつけられていることが分かる。これは、複合旋盤とマシニングの融合加工により、一般的なY軸加工ではなく、5軸加工が施されて

いるからである。こういった複合的な処理や三次元測定機の導入により、量産品から試作品1個まで、これまで以上に高品質高精度の製品をつくるのが可能となっている。

機械が高度になればなるほど、それを扱う人間にも技術が求められる。同社では、日々のフリーフィングや外部講師を招聘して行う品質管理検討会議において、品質実績の確認、問題発生要因の分析、改善・対策を協議し、品質の向上を徹底的に追求している。併せて、「モノづくりは人づくりから」を行動指針に、熟練工を講師として休日の社内講習会「富士学校」を開いているほか、「トリプルR」RESEPECT「他の人の思考・感情・経験に敬意を払う」、REAL「本音で意見を出し合って最善の道を導き出す」、RELATIONS HIP「より良い人間関係づくりに注力する」を合言葉に、社員全員によるボトムアップを心がけ、より一層社会に必要とされる会社をめざす。



φ230の複合加工を施した自動車塗装用産業ロボットの部品



三次元測定機